

令和元年第4回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会

書面会議報告書

<概要>

1 開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的として多人数の集まる会議等の開催を中止する市の方針に基づき、本委員会の会議形式での開催を中止し、書面開催とした。

2 協議の方法

各委員宛に資料を送付し、資料を確認の上、意見・質問等を意見等提出書に記入し提出を依頼し、また、「にしん幸せまちづくりプラン中間見直し」の修正については、委員長と事務局に一任する旨の委任状の提出をお願いする方法とした。

3 資料を送付した委員（13名）

谷口功、長谷川純、伴律子、土井芳己、大野忠夫、松原健、秋田有加里、山田幹雄、興梠精視、成田ゆき江、幸村朋子、井口紘一、数井美津子（順不同）

4 資料送付日

令和2年3月12日（木）

5 意見等提出期間

令和2年3月12日（木）から令和2年3月18日（水）まで

6 委任状提出状況

承認 12名／13名 非承認 0名／13名
（残り委員1名は委員長のため承諾書未提出）

7 提出意見等

- ・68 ページ、社協欄「第1層コーディネーターやCSWとして第2層コーディネーターと協力連携・活動支援する」は兼務を前提としているため、計画を推進する決意に欠けている。専任の人材確保で取り組んでいただきたい。
- ・110 ページ、修正一覧表「大切な人を自死で亡くされた人の」→本文「自死で大切な人を亡くされた人の」は、本文の方が通りが良い。

- ・ 124 ページ、目標値 60 から 70 の修正がされていません。
- ・ 全体を通して、きめ細やかな施策となっており、いいと思います。ただ、施策を行うことの目的があるはず。住民の困りごとが対応できていない、認知症の方が多い、子どもの事件が多い等。今後は、いろいろ行っている施策が、目的に効果を発揮しているかの検証できる様にしておいてほしい。検証は複合的要因からなり、効果の有無は、非常に難しく「A I」の世界かもしれませんが、常に「目的」を意識することは必要で、検証（考察）することは必要です。さもないと、概念的発想から、「器」行政、膨らむ一方の外郭行政、ばらまき行政となっていくことを危惧します。
- ・ 今回、「市民の意識調査」をされたのは検証する上の一助で、非常に意義があることだと思います。
- ・ 高齢者世帯福祉票登録世帯数の件について、現在特別なことがなければ、65 歳以上の一人暮らし・75 歳以上の高齢者世帯を対象に訪問していますが、75 歳ごろまでは働いているか、趣味を楽しまれています。お元気な方は、福祉票に登録していただくより、地域活動に引き込む方法を考えていきたいです。
- ・ 協議体とたすけあい会議は別のものであることが、市の回答からはっきりとわからない。「両者の関係性については、設置を進める中で整理していきたい」ということではなく、三圏域で自治組織をつくるというしっかりとした認識のもとに進めていかなければ実現は難しい。
- ・ 市と社会福祉協議会が協働して5年後までにたすけあい会議を三圏域でつくることになる。実現に向けて具体的な工程表をわたしのまちのしあわせづくり委員会で示してほしい。
- ・ 本計画の位置づけが、保健福祉分野を包括するものとなった。自殺対策計画や成年後見制度利用促進計画も含まれた。たすけあい会議の設置を実現しなければならない。このような状況から、計画の進捗管理が今まで以上に重要になってくる。それを担うわたしのまちのしあわせづくり委員会の開催が、年1回では審議が不十分である。最低3回は必要。（計画の進捗管理を担う附属委員会では年3回以上開催している。年1回開催の委員会は、目的が情報交換や報告を聞くもの）